

■部会名：高齢化・市民活動部会

■部会長（有識者委員）：佐藤 克之 委員

■市民委員：景山 奨 委員、岸本 佳廣 委員、小島 忍 委員、高橋 正生 委員

## ■概要

### 1 マトリックス集計結果・議論の方向性の確認

**佐藤部会長**：集計結果を見ながら、第6回全体会議でこの部会として報告した内容を再確認したい。それがおそらく今後の議論のたたき台になる。

まず一番重要なのが、『若者（学生）から高齢者までのマンパワーを活かす持続性のあるシステムづくり』であり、これが『福祉』・『市民活動（コミュニティ）』・『元気なお年寄』などすべてに関わってくる。

二つ目が『市民活動（コミュニティ）』というキーワードで、ここでは自治会についての意見がたくさん出ており、重要だと考えられる。

三つ目に「まちづくり支援事業で他団体との出会いの場の設定が必要」・「市民活動団体に人的余裕がない」・「お金以外の部分で協働するためのコミュニケーションや連携が必要」といった意見が出ている。

四つ目に予防医療に力を入れていくべきではないかとあり、これは高齢者ばかりではなく、子どもたちのことも含んでいて、「江別で子供を産んで、育てたいと思える医療体制づくり」という意見も重要である。

もう一つが、「道立高等養護学校の誘致」であるが、この進捗状況はどうなっているか。

⇒（事務局）北海道教育委員会の最終決定は再来年となる予定。江別は札幌圏での第一候補となっており、これから2年間の取り組みが重要となる。

**佐藤部会長**：そういうことであれば力を入れなければならない。次に高齢者・障がい者・子どもを含めたバリアフリー化のことがある。それからマンパワーに関しては、「市民の10人に1人が学生という若い力の活用」、そして大学が4つもあることから4大学の連携が重要で、「大学と地域の結びつきにおいて実効性のある政策提案が必要」、4大学連携のコーディネーターが必要ではないかということと、高齢者が活躍するまちづくりが求められているということがある。

マトリックスの欄外によけてある意見も整理をしなければならない。市役所の仕組みづくり、プロの育成、研修、若手職員と市民活動団体が話し合う場といった意見が出ており、きちんと整理して提案していくことが必要である。

○ この市民会議の提言としては、どのレベルの話をするればよいのか。この部会では比較的スムーズに意見がまとめられて整理されてきているが、他の部会の報告を聞いていると、細かい事業レベルの話が多かったので、我々の進め方で正しいのかどうか。

**佐藤部会長**：我々の進め方で問題ない。意見のある程度整理しながら、戦略テーマを絞っ

ていき、そこからそれを実現するためのシステムづくりを提案して、市に実践してもらう。

大事なのは、市民自治の視点で協働の取り組みにより市民が一緒になってまちづくりをしていく、そのための仕組みをきちんとつくること。今までのように市民は提案するだけであとは市にお任せ、とならないように市民と協働でいろんなことをやっていこうというのが、今回の市民会議の一番大きな目的である。仕組みづくりがきちんとできれば、人が替わっていても継続的に色々なことに取り組んでいける。協働のための仕組みや市内にある4大学を活用する仕組みづくりをしっかりとしていくことが重要で、我々の提言としてはシステムづくりをしっかりとやろうということである。

- 第1回～3回の市民会議では各委員が自由に発言するスタイルだったため、思いつきで発言した意見や似たような意見がたくさんある。あと数回で議論をまとめるためには外すものは外して絞っていかなければならないのではないかと。
- さきほど重要なキーワードとして挙げた『元気なお年寄』・『福祉』・『市民活動（コミュニティ）』などが戦略テーマにつながっていくのではないかと。
- マトリックスの集計結果で点数の高い順に上からいくつまでを残す、と決めて絞り込んでどうか。
- 前回の部会での議論で意見の整理や絞り込みはできつつある。たまたま点数も高かった『若者（学生）から高齢者までのマンパワーを活かす持続性のあるシステムづくり』が大きなテーマになり、そこに合わないものはマトリックス欄外に外して整理したので、この方向で絞り込めばよい。

**佐藤部会長：**この部会の大きなテーマとしては『若者（学生）から高齢者までのマンパワーを活かす持続性のあるシステムづくり』であり、それにぶら下がるものとして『元気なお年寄』・『福祉』・『市民活動（コミュニティ）』というテーマがあるので、この三つの戦略テーマに分けて意見を整理していく。『福祉』としている戦略テーマには、障がい者・子ども・乳幼児・高齢者介護など福祉全般をまとめることとする。これらのテーマに合わないものは欄外に外し、逆にテーマに入れるものは欄外から戻すという作業をしたい。

## 2 戦略テーマの整理

### 【作業中の意見】

- 強みや弱みなど現状に関する意見、単なる感想や不満などは欄外に整理する。
- 巡回バスは買い物対策としては良いが、病院への通院用としては朝早くから並ばなければ診察を受けられる時間が遅くなってしまうので使えない。
- 「歩道を自転車と歩行者に明確に区分」⇒ 安全・安心部会で重点的に議論しているとのことなので、そちらに任せる。
- 「除雪がきれいな地域の表彰制度」⇒ 除排雪を所管する安全・安心部会で議論してもらう。
- 「ミニスーパーの整備」とあるが、すべての人の家の近くにつくるのは無理な話。そ

うではなくて、独居老人など買い物に不便している人の情報を収集して、巡回して売りに行くようなやり方であれば可能性はある。

- 地元での消費を活性化するために、地域での買い物に使える商品券のようなものを結婚祝い金として出してはどうか。
- 4大学が連携するために、とりまとめ役となる市の窓口のようなものができて、継続的に活動できるようシステム化できるとよい。
- 文科省は今年から大学と自治体・地域との連携を前面に打ち出して補助金を出そうとしている。それを活用して市が音頭を取って仕組みづくりをすれば色々なことができる。

### 3 その他

- 我々の提言は今後どのように実現に向かっていくのか。  
⇒（事務局）各部会で今検討している提言を束ねて市民会議全体の提言として市長に提言する。それを受けて行政側が新総合計画の素案をつくる際に、総合計画に反映して実現する方向か、それとも実現が難しく総合計画に入れられないものか、入れられない場合はその理由が何なのかを整理し、どのような結果になったのか市民会議のみなさんにお知らせする。
- マトリックスの集計結果はその過程にどう影響するのか。  
⇒（事務局）基本的には戦略テーマとして整理していただいた中に反映されているかと思う。欄外に外されているものの中に点数の高いものもあるが、それは部会として議論した結果、実現が難しいと判断したものであるから、やむを得ないと考える。
- 市独自の各分野の個別計画があると思うが、それらと我々の提言は整合性がとれているのか、あるいはどう整合性をとるのか。  
⇒（事務局）総合計画というのは市の最上位の計画であり、その下に各分野の個別計画が位置付けられる。平成26年度にスタートする新総合計画に合わせて、各分野の個別計画は基本的には見直して整合性をとることになる。
- 市議会の常任委員会での議論と、今まで市民会議で話題になった戦略テーマなどの議論を突き合わせてみてはどうか。  
⇒（事務局）新総合計画の策定は大きな課題であり、3つの常任委員会すべてに関わる横断的な問題のため、特別委員会の設置になると思われる。そこで新総合計画について専門的に議論をしてもらう予定である。このように市民会議を設置してご議論いただいたという趣旨を行政だけでなく議会にも十分ご理解いただいた上で進めていきたい。
- この市民会議の最終目的は、いかに江別市を強く発展性・将来性のあるまちにするかだと思う。そのためには色々な課題があるが、それをまとめていくと最終的に江別を将来性のある強いまちにするということに尽きる。例えば、当市も人口減少となっている中で、なんとかこれ以上人口減少しないようにするための具体策をつくっていくことが必要。そのためには札幌から江別に移り住んでもらうための取り組みが必要ではないか。例えば大麻地区にたくさんある空き家の情報を市で吸い上げて、札幌市に

いるアパート住まいの若い世代に江別に移り住んでもらうための情報発信をやってもらいたい。

- 人を呼び込むための大きな魅力の一つは教育の上での優位性だと思う。
- 工業団地の企業からアンケートをとって、市に対して何を求めているのか把握すべき。働く場所があれば若い世代の人口増加につながるし、大学生などの卒業生も地元就職できるので、企業誘致は絶対に必要である。